

# WHAT

## ドイツ・ブッパタール大学

人間文化創成科学研究科 人間発達科学専攻  
教育科学領域 博士後期課程  
田中直美

今回留学をする大きな目的は、ドイツ語の習得、そして現地の研究者たちとのコネクションを作ることでした。お恥ずかしい話、私はドイツ語を勉強したことがありませんでした。実際に留学する数か月前から、語学学校に通い初級コースを受け、留学先の大学に通う1か月前に、ドイツに渡って現地の語学学校で初級コースを終えました。長期留学は高校生の時に一度経験していたので、そんなに困ることはないだろうと思っていました。当時の留学先では「田舎の方はちょっと人種差別的な人もいるかもしれないよ」と言われていましたが、実際にそういうことはほとんどありませんでしたし、学校のサポートが強力だったこともあり、非常に有意義に過ごすことができました。なので余計にびっくりしたのですが、今回の留学中に差別的な発言を（それもドイツなのに！）多々耳にしたので本当に驚きました。日常生活以外でも、例えば授業でも、研究対象からして絶対に英語ができるはずなのに、私が困っていても絶対にドイツ語しか話してくれない先生がいたり、ドイツってこんなに仕切りが高い国だったのかと思わされました。ごく一部といえればこれはごく一部なのかもしれませんが、私も完璧にドイツ語が話せる状態で行った訳ではないので、だいぶ反省しました。

それでも日本語とドイツ語のタンデムの授業で仲良くなった友達は、多少語学ができずとも仲良く遊びに行ったり、時にはドイツ語を教えてもらったりと、特にそういったことを気にする必要はなく過ごせました。もともと日本に興味がある子たちが集まっているからという理由は大きいとは思いますが。

現在はそこで知り合った仲良しの女の子がお

茶大に2か月間、交換留学生として来てくれています。また日本でも会えて、何気ないことも話せるのでとても嬉しいです。



さて、当初の目的であったドイツ語の習得ですが、めげながらも自分よりちょっと（あるいはだいぶ）ドイツ語ができる留学生や、タンデムのネイティブの人たちに積極的に話しかけコミュニケーションをとった結果、語学学校のレベルではちょうど真ん中くらいに達しました。日常生活で何か困ることはありませんが、ゼミなどの議論や哲学書がスラスラ読めるようになるにはもう少し時間が必要だと思います。ですが、今回の留学を通して、ドイツ語に対する抵抗感などが解け、実際に研究対象としている思想家が過ごした町や関連する博物館なども訪れることができたので、研究のモチベーションはだいぶ上がりました。

残念ながら留学先の担当の先生と私の研究対象が異なるため、そこからさらにつながりは増えませんでした。研究対象と関連する学会に参加した際に、何人かの先生方とお話することができ、今でも研究についてアドバイスを頂いたりしています。今後も、今回の留学での経験を生かして研究に励みたいと思います。